

対象病害	処理薬剤	処理方法	注意事項	
種子消毒 (いもち病、 ばか苗病)	テクリード C フロアブル (100 mL)	200 倍に希釈した液に 24 時間浸漬する。	種モミ 1kg に対して 希釈した薬液量 1.7L の 割合で処理する。	① 液温は 10°C 以上(15°C 前後が理想)とする。 ② 消毒後は水洗いせず、浸種する。浸種まで日にちが 空く場合、陰干しして風乾させる。 ③ 使用後の薬液は毒性が強いので河川に流したりせ ず、適切な処理をする。
苗床 (苗立枯病)	タチガレース M 粉剤 (1 kg)	育苗箱 1 箱(土 5L) 当り 6~8g 混和する。	① 薬量が多いと生育に害が出るので適正量で使用する。 ② は種当日の混和を基本とする。事前使用では効果が落ちる場合ある。 ③ リゾープス菌による苗立枯病対策には「ナエファイン粉剤」を使用する。	
苗箱施薬 (害虫、 いもち病)	ブーンパディート箱粒剤 (1 kg)	育苗箱 1 箱当り 50g	① いもち病が心配ない圃場は「パディート箱粒剤」に代えて使用する。 ② 紋枯病が昨年多発した圃場では「稻大将箱粒剤」を使用する。 ③ 移植当日に使用する場合は、植付け直前に散布する。 散布後長く放置すると薬害が発生するため、早めに植えつける。	

月 日	散布時期	散布薬剤(10a 当り使用量)	代替農薬(10a当たり)	注 意 事 項
月 日	特別散布 代かき直後	【省力】 先陣ジャンボ (200g(小包装 × 10 個)) (植代後～移植 7 日前)	200g	① 田植えが代かきから 7 日以上となる場合に限り 実施する。 ② 実施した場合、散布後 7 日間は落水しない。 ③ 代かき直後の水が濁っている時に散布する。
月 日	第 1 回 田植え 翌日後	センメツ Z 1 キロ粒剤 (1 kg)(移植直後～)	1kg	① ジャンボ剤は散布前に水深を確保しておく(約 5 cm)。 ② 除草剤散布後 3 日間は入水しない。 地面が露出してしまう場合は、露出する前に入水する。 ③ 代かきから第 1 回の除草剤までの日数が開くほど、 雑草発生リスクはあがる。 ④ 薬害回避のため「移植後 3 日～」となっている剤は使 用時期を間違えないよう注意する。 ⑤ 藻が全体の 4 割以上発生してしまった場合、モゲトン 粒剤(3 kg)を 10a 当たり 2 ~ 3 kg 敷布する。

ガス湧き対策(田植え 10 日後): 田に入った時泡が発生する場合は、田植え 10 日後から 7 日間程干してガス抜きをする。
ガス抜き後に入水したら、雑草の発生を確かめ第 2 回の防除を実施する。

月 日	第 2 回 田植え後 20 日頃	レプラスギア 1 キロ粒剤 (1 kg)(移植後 14 日～)	1 kg	【省力】 ツイゲキ豆つぶ 250 (250g)(移植後 14 日～、 稻 5 葉期以降) 【省力】 ソニックブーム S ジャンボ (500g(小包装 × 20 個)) (移植後 14 日～ 但し、稻 4 葉期以降)	① 雜草の発生に応じて実施する。 ② 雜草の初期発生を見逃さないために、田んぼを覗き 込んで確認する。雑草が水面から出る前に早めに実 施する。 ③ ツイゲキ豆つぶ 250 はジャンボ剤の一種です。
月 日	特別散布 中干し期 (落水処理)	【粒タイプ】 バサグラン粒剤 (3 kg)(収穫 45 日前まで)	3 ~ 4 kg	【散布タイプ】 ロイヤント乳剤 (水 100L に 200 mL) (収穫 45 日前まで)	① バサグラン粒剤はヒエには効果がないため注意。 ② ロイヤント乳剤はホタルイとクログワイに対して効果 が期待できないため注意。 ③ 敷布後 4 日間は水を入れない。 ④ 敷布後 2 日間に降雨があると効果が落ちるので、 天候に注意する。 ⑤ 降雨が続く場合は晴れ間を見計らって「ロイヤント乳 剤」を敷布する。(敷布後 2 時間は降雨が無い時)
		【散布タイプ】 クリンチャーバス ME 液剤 (500 mL)(収穫 50 日前まで)	水 100L に 1,000 mL		
月 日	特別散布 いもち病 出穂 20 日前	【省力】 コラトップジャンボ P (500g(50g × 10 個))	小包装 10 ~ 13 個 (500 ~ 650g)	プラシン粉剤 DL (3 ~ 4 kg)	① いもち病の穗への感染を抑える目的で実施。 ② 滞水状態で使用する。 ③ 感染を予防するためなので、遅れると効果が薄い。
月 日	特別散布 出穂 7 日後	【カメムシ対策】 スタークル豆つぶ (250g)	250g	トレボン粉剤 DL (3 ~ 4 kg)	① 滞水状態で敷布する。 ② 敷布後 3 日間は、有効成分が薄まらないよう入水を 控える。

	農薬名	使用時期	使用量	使用回数	対象病害虫
種子消毒	テクリードCフロアブル	浸種前	200倍に希釈した液に 24時間浸漬する	1回	いもち病、ばか苗病、苗立枯細菌病(リゾープス菌、トリコテルマ菌) ごま葉枯病、もみ枯細菌病、褐条病
苗床	タチガレースM粉剤	は種前	育苗箱1箱(土5ℓ)当たりに 6~8g混和する	1回	苗立枯病(ピシウム菌、フサリウム菌) ムレ苗防止
	ナエファイン粉剤				苗立枯病(ピシウム菌、フサリウム菌、リゾープス菌) ムレ苗防止
苗箱施薬	ブーンパディート箱粒剤	は種時(覆土前) ~移植当日	育苗箱1箱(土壤 5ℓ)当たり 50g	1回	いもち病、イネドロイムシ、イネミズゾウムシ、[移植当日:ヒタビウンカ ニカメイチウ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤカ、イネヒメハモグリバエ、イネツムシ]
	パディート箱粒剤	は種時(覆土前) ~移植当日	育苗箱1箱(土壤 5ℓ)当たり 50g	1回	ニカメイチウ、イネツムシ、イネドロイムシ、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、 フタオビコヤカ、[移植当日:イネハモグリバエ、ヒタビウンカ]
	稻大将箱粒剤	は種時(覆土前) ~移植当日	育苗箱1箱(土壤 5ℓ)当たり 50g	1回	紋枯病、いもち病、もみ枯細菌病、白葉枯病、 穂枯病(ごま葉枯れ病)、ウンカ類、ニカメイチウ、ツマグロヨコバイ、イネミズゾウムシ、イネドロイムシ、イナゴ類、フタオビコヤカ、イネツムシ、コブノメイガ

除草剤

	農薬名 (使用時期)	10a当たり使用量	使用方法	使用回数	適用雑草/病害虫
初期	先陣ジャンボ (植代後~移植7日前 又は移植直後~ビエ1葉期 ただし、移植後30日まで)	200g	湛水水田へ 小包装(パック)のまま 投げ込む	1回	水田一年生雑草、ホタルイ、ヘラオモダカ、 マツバイ、アオミドロ・藻類による表層はく離
	エリジヤン乳剤 (植代後~移植7日前 又は移植直後~ビエ1葉期 ただし、移植後30日まで)	300mℓ	原液湛水散布	1回	水田一年生雑草、ホタルイ、オモダカ、ウリカワ マツバイ、クログワイ、コウキヤガラ、ヒルムシロ ヘラオモダカ
初中期	センメツエキロ粒剤 (移植時、移植直後~ビエ4葉期 ただし、移植後30日まで)	1kg	湛水散布 (田植え同時散布機で 移植時に散布可能)	1回	一年生雑草、ホタルイ、オモダカ、ミズガヤツリ マツバイ、クログワイ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、ウリカワ アオミドロ・藻類による表層はく離、シズイ、セリ
	シンズイエフロアブル (移植3日後~ビエ4葉期 ただし、移植後30日まで)	500mℓ	原液湛水散布	1回	一年生雑草及び多年生雑草
中後期	ダンクショットジャンボSD (移植3日後~ビエ3葉 ただし、移植後30日まで)	小包装(パック) 10個 (200g)	湛水水田へ 小包装(パック)のまま 投げ込む	1回	一年生雑草、多年生広葉雑草
	センメツエジャンボ (移植3日後~ビエ3葉 ただし、移植後30日まで)	小包装(パック) 10個 (200g)	湛水水田へ 小包装(パック)のまま 投げ込む	1回	水田一年生雑草、ホタルイ、マツバイ、オモダカ、 シズイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ウリカワ、 ヘラオモダカ、クログワイ、ヒルムシロ、セリ
後期	レプラスギアエキロ粒剤 (移植後14日~ビエ4葉期ただし収穫60日前まで)	1kg	湛水散布	1回	水田一年生雑草、多年生広葉雑草
	ソニックブームSジャンボ (移植後14日~ビエ4葉期ただし収穫60日前まで)	小包装(パック) 20個 (500g)	湛水水田へ 小包装(パック)のまま 投げ込む	1回	水田一年生雑草、多年生広葉雑草
	ツイゲキ豆つぶ250 (移植後14日(5葉期以降)~ビエ4葉期 ただし収穫60日前まで)	250g	湛水散布	1回	一年生雑草、ホタルイ、オモダカ、マツバイ、セリ クログワイ、ミズガヤツリ、コウキヤガラ、ヒルムシロ ウリカワ、アオミドロ・藻類による表層はく離
藻類	バサグラン粒剤 (移植後15日~ ただし収穫45日前まで)	3~4kg	落水散布又は、 ごく浅く湛水して散布	1回	水田一年生雑草(イネ科を除く) ホタルイ、オモダカ、クログワイ、ミズガヤツリ、シズイ ヘラオモダカ、ウリカワ、マツバイ、エゾノサヤヌカグサ
	クリンチャーバスマE液剤 (移植後15日~ビエ5葉期まで ただし、収穫50日前まで)	水100ℓに1,000mℓ	落水散布又は、 ごく浅く湛水して散布	2回以内	一年生雑草、ホタルイ、オモダカ、シズイ、セリ クログワイ、ヘラオモダカ、コウキヤガラ、ウリカワ キシウスズメヒエ
	ロイヤント乳剤 (移植後20日~ビエ5葉期までただし、収穫45日前まで)	水100ℓに200mℓ	落水散布又は、 ごく浅く湛水して散布	2回以内	一年生広葉雑草、ビエ、マツバイ、オモダカ アゼガヤ、マツバイ、ウリカワ、セリ
藻類	モゲトン粒剤 (ウキクサ類、藻類の発生始~発生盛期 ただし、収穫45日前まで)	2~3kg	湛水散布	2剤合せて 3回以内	2~3kg:藻類(アオミドロ、アミミドロ)、ウキクサ類 3~4kg:ヒルムシロ、ウリカワ
	モゲトンジャンボ (ウキクサ類、アオミドロ・藻類による表層剥離発生時 ただし、収穫45日前まで)	20個(1kg)	湛水状態で 投げ入れる		アオミドロ・藻類による表層はく離、ウキクサ類、

殺虫・殺菌剤

農薬名	10a当たり使用量	使用時期	使用回数	対象病害虫
コラトップジャンボP	小包装(パック) 10~13個(500~650g)	穂いもちに対して 出穂30~5日前まで	2回以内	いもち病
ブラシン粉剤DL	3~4kg	収穫7日前まで	2回以内	いもち病、変色米(カーブラリア菌、エピコッカム菌) 穂枯れ(ごま葉枯病、すじ葉枯病)
スタークル豆つぶ	250g	収穫7日前まで	3回以内	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ
トレボン粉剤DL	3~4kg	収穫7日前まで	3回以内	カメムシ類、ウンカ類、イナゴ類、コブノメイガ、フタオビコヤガ ニカメイチウ、ツマグロヨコバイ、イネミズゾウムシ成虫